

目的：A. 生産・業務プロセスの改善

コース番号はDX対応コースです。

分野：生産管理	コース番号	コース名	ページ
生産・開発計画	048	ものづくりの仕事のしくみと生産性向上	1
	001	生産性分析と向上	2
	002	生産現場の問題解決	3
工程管理	003	生産性向上のための課題とラインバランシング	4
	004	生産計画と工程管理	5
管理手法	005	サービス業におけるIE活用	6
	129	製造分野におけるDX推進	7
原価管理	006	原価管理とコストダウン	8
製品出荷・在庫管理	007	在庫管理システムの導入	9
	134	在庫管理の進め方	10
購買・原材料在庫管理・払出	008	購買・仕入れのコスト削減	11
	009	POSシステムの活用技術	12

分野：品質保証・管理	コース番号	コース名	ページ
品質保証・管理手法	010	品質管理基本	13
	011	品質管理実践	14
	053	サービスマネジメントによる品質改善と向上	15

分野：流通・物流	コース番号	コース名	ページ
流通・物流	015	3PLとSCM	16
	016	物流のIT化	17
	013	流通システム設計	18
	014	物流システム設計	19
	012	卸売業・サービス業の販売戦略	20
	017	SCMの現状と将来展望	21

ものづくりの仕事のしくみと生産性向上

人材育成上の課題・目標

- ・QCD・SMの重要性に対して従業員の意識が低い
- ・非正規社員、パート従業員の知識の向上を図りたい、また、定着率を高めたい
- ・各部門間の連携を円滑、スムーズにしたい
- ・ものづくりにおける業務改善の必要性について周知したい



課題解決・目標達成を目指して

- ・製造業を取り巻く環境と各部門業務全体を理解する
- ・ものづくりの全体の流れを理解する
- ・ものづくり現場における課題・発見解決方法を理解する
- ・ものづくりにおける業務改善に関する事例を知る

コースのねらい

製造業の業務の流れと各部門の役割について学び、製造業全体の基本的なしくみを理解するとともに、製造現場での仕事に対する考え方、自身の立場や責任を理解し、業務改善の考え方を習得する。

カリキュラム（例）

	基本項目	主な内容（例）
基本要素	■ ものづくりの仕事の流れ	<ul style="list-style-type: none"> ・製造業を取り巻く環境 ・企業経営とは ・製造業全体のしくみ ・製造業における各部門の役割 ・製品のライフサイクル
	■ ものづくり現場の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・製造業のQCD・SM ・生産管理のしくみ ・ものづくり現場の5S ・原価と利益
	■ ものづくりに関する業務改善	<ul style="list-style-type: none"> ・改善活動の基本 ・問題発見・解決 ・改善と気づき
演習（例）		<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくり活動における問題発見と改善演習 ・工場内の各部門間の業務連携演習 ・担当業務における改善提案演習
応用・実践要素（例）		<ul style="list-style-type: none"> ・生産管理とQCD・SM ・生産性改善の事例紹介

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
(2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推薦対象者

初任層

関連コース

- A 生産管理
 - ・生産性分析と向上
 - ・生産現場の問題解決
 - ・生産性向上のための課題とラインバランシング
B 組織マネジメント
 - ・成果を上げる業務改善

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることができます。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

生産性分析と向上

人材育成上の課題・目標

- ・材料・部品・資材調達計画の作成ができるようになりたい
- ・中・長期的な生産計画の立案と策定ができる人材を育成したい
- ・作業・工程実績の分析ができる人材を育成したい
- ・作業改善を立案できる推進者を育成したい
- ・生産性を向上させるために情報を電子化して一括管理したい

課題解決・目標達成を目指して

- ・生産設計を理解する
- ・自社での現状分析方法を理解する
- ・生産活動の問題点発見と改善方法を理解する
- ・生産改善の事例を知る
- ・各種データの電子化と管理方法を理解する

コースのねらい

生産方式を理解し、生産性向上のために現状分析と改善活動ができる知識、技能を習得する。

カリキュラム（例）

	基本項目	主な内容（例）
基本要素	■ 生産方式と生産性	<ul style="list-style-type: none"> ・生産方式の種類 ・人、もの、時間の管理 ・生産計画と生産統制
	■ 現状分析と効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・現状分析 ・生産設計 ・レイアウト
	■ 改善活動	<ul style="list-style-type: none"> ・改善活動の基本 ・問題点発見
演習（例）		<ul style="list-style-type: none"> ・生産設計演習 ・生産活動の問題点発見と改善演習 ・自社での現状分析演習
応用・実践要素（例）		<ul style="list-style-type: none"> ・E C R Sによる業務改善 ・生産シミュレーション技術 ・生産改善の事例紹介

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
(2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。

※ 6～30時間の間で設定可能です。

推薦対象者

中堅層

関連コース

- A 生産管理
 - ・生産現場の問題解決
 - ・生産性向上のための課題とラインバランシング
 - ・生産計画と工程管理
- B 組織マネジメント
 - ・成果を上げる業務改善

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることができます。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

生産現場の問題解決

人材育成上の課題・目標

- ・生産計画を作成できる人材を育成したい
- ・生産出荷目標設定や需要予測の精度を上げたい
- ・生産性を向上するための改善策を知りたい
- ・作業・工程実績の分析手法を学びたい
- ・作業改善を立案できる推進者を育成したい

課題解決・目標達成を目指して

- ・生産計画作成と問題を把握する
- ・現場作業のムリやムダ取り手法を理解する
- ・課題を解決して生産現場を改善する
- ・作業をシミュレーションして分析する
- ・生産現場の改善事例を知る

コースのねらい

生産管理を理解し、生産現場の問題を発見、解決できる知識、技能を習得する。

カリキュラム（例）

	基本項目	主な内容（例）
基本要素	■ 生産活動の基本	<ul style="list-style-type: none"> ・生産活動の基本 ・生産現場の問題とは
	■ 現状分析とムダの発見	<ul style="list-style-type: none"> ・ムダとは何か ・現状分析 ・ムダの発見
	■ 生産現場の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・改善の手順 ・効果的な改善のためのポイント
	演習（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を通じた生産現場の改善演習 ・現場のムダ排除のための改善グループ演習 ・自職場における現状分析とムダの発見
応用・実践要素（例）		<ul style="list-style-type: none"> ・作業分析のシミュレーション ・生産活動業務改善ソリューションの紹介 ・生産現場の改善事例紹介

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
(2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推薦対象者

中堅層

関連コース

- A 生産管理
 ・生産性分析と向上
 ・生産性向上のための課題とラインバランシング
 ・生産計画と工程管理

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることができます。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

生産性向上のための課題とラインバランス

人材育成上の課題・目標

- ・統括的な生産計画を立案できる人材を育成したい
- ・生産量予測ができ、安定的な生産性向上を目指したい
- ・新製品、新設備の初期管理体制作りができる人材を育成したい
- ・製造ラインの問題解決に的確な指示が行えるようにしたい

課題解決・目標達成を目指して

- ・生産スケジュール計画を作成する
- ・生産管理システムの導入とその効果を理解する
- ・生産スケジュールに基づき工程計画を作成する
- ・自社における生産現場の課題を把握し、解決策を策定する

コースのねらい

生産システムを活用した生産性最大化や納期遵守など、生産性向上・最適化をめざして、生産計画、加工計画、作業計画などを実行するためのものづくり生産工程改善等の手法と潜在化している現状の生産システムの問題点を把握し改善・検証する手法を習得する。

カリキュラム（例）

	基本項目	主な内容（例）
基本要素	■ 生産現場の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生産現場の課題 ・生産性向上のための課題
	■ 生産スケジュールと工程計画	<ul style="list-style-type: none"> ・日程計画と投入規則 ・ガントチャートについて ・スケジューリングの分類 ・生産コントロールについて ・生産方式に応じたラインバランスについて
	演習（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を通じた生産スケジュール計画の作成 ・参加企業の生産現場の課題共有 ・自社における生産現場における演習と検証
応用・実践要素（例）		<ul style="list-style-type: none"> ・生産管理システムの導入とその効果 ・ICタグを活用した在庫管理と分析手法 ・生産システムシミュレーション

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
(2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。

※ 6～30時間の間で設定可能です。

推薦対象者

中堅層

関連コース

- A 生産管理
 - ・生産性分析と向上
 - ・生産現場の問題解決
 - ・生産計画と工程管理

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることができます。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

生産計画と工程管理

人材育成上の課題・目標

- ・生産システムを改善したい
- ・生産システムの策定ができる人材を育成したい
- ・営業、設計、調達、生産情報の統一した管理体制を実現したい
- ・リードタイム短縮のための各部門の課題を解決したい
- ・納期短縮のための生産システムなどのノウハウを知りたい

課題解決・目標達成を目指して

- ・生産計画の立て方と実現対策を理解する
- ・生産計画の作成方法を理解する
- ・リードタイム短縮に向けた計画を検討する
- ・生産管理課題の改善策を検討する
- ・ビッグデータによる生産管理の最新動向を知る

コースのねらい

多品種少量化や短納期化など、顧客の多様なニーズに適した生産計画の策定を目指して、工程管理に必要な視点、生産計画・統制への柔軟な取り組み方について理解し、自社の納期管理を見直していくためのポイントを習得する。

カリキュラム（例）

	基本項目	主な内容（例）
基本要素	■ 工程管理の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・工程管理の目的 ・工程管理の手法 ・工程管理表の種類 ・工程管理の実施のポイント
	■ 生産計画の立案と作成手順	<ul style="list-style-type: none"> ・受注生産と見込み生産 ・需要予測に基づく生産計画 ・生産能力に合わせた負荷計画 ・在庫管理と生産リードタイムの関係 ・納期遅延への対応策の検討 ・多品種少量生産の課題
	演習（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・生産計画の立案の課題演習 ・生産ラインの遅れにつながる問題の洗い出し ・生産管理課題改善策の検討
応用・実践要素（例）		<ul style="list-style-type: none"> ・生産管理システムの導入 ・ビッグデータによる生産管理の最新動向 ・MES（製造実行システム）の動向

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
(2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推薦対象者

中堅層

関連コース

- A 生産管理
 - ・生産性分析と向上
 - ・生産現場の問題解決
 - ・生産性向上のための課題とラインバランス

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることができます。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

サービス業における IE 活用

人材育成上の課題・目標

- ・サービス現場を改善して、収益率を上げたいが方法がわからない
- ・バックヤードでのロス・ムダに着目して作業効率を高めたい
- ・自立した改善活動ができる基礎を築きたい
- ・品質及び業務管理の社内標準化を図りたい

課題解決・目標達成を目指して

- ・サービス現場の改善方法を理解する
- ・業務の現状分析によりノウハウを見る化する
- ・製造業などで使用している作業分解表を活用する
- ・IE活用による改善活動計画案を作成する

コースのねらい

サービス現場における IE (Industrial Engineering) に関する管理についての知識と技能を習得する。

カリキュラム（例）

	基本項目	主な内容（例）
基本要素	■ サービス業における改善活動	<ul style="list-style-type: none"> ・改善活動の必要性 ・サービス現場における生産性 ・改善活動の到達目標
	■ サービスの現場改善の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・プロセス改善の手順 ・IEによる作業分析 ・バックヤードの改善視点 ・作業プロセスと現場環境改善
	■ 運営責任者のマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・運営責任者のマネジメント ・従業員の意識と責任者の行動 ・生産性改善環境の構築
演習（例）		<ul style="list-style-type: none"> ・課題を通じた現場環境改善演習 ・事例を用いたIEによる作業分析演習 ・IE活用による改善活動計画案の作成
応用・実践要素（例）		<ul style="list-style-type: none"> ・IE 7つ道具 ・業務改善とIoTとの連携事例 ・業務の現状分析によるノウハウなどの見える化

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
(2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推薦対象者

管理者層

関連コース

- A 流通・物流
・卸売業・サービス業の販売戦略

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることができます。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

製造分野におけるDX推進

人材育成上の課題・目標

- ・ 製造現場で利用されているデジタル技術を知りたい
- ・ 製造で収集されるデータの活用方法について知りたい
- ・ 製造分野DXでどのような目指す姿があるか知りたい
- ・ 自社のDX進捗状況を知りたい
- ・ 自社に合ったデジタル化を図りたい
- ・ 製造現場でのDX推進の手順を知りたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・ 製造現場での活用するデジタル技術（ICT、IoT）を理解する
- ・ 今後の課題解決のため、現状のDX進捗状況の測定方法を理解する
- ・ 各種装置から得たデータの活用方法と改善に向けた対応を理解する
- ・ スマートファクトリ等の製造現場に向けたDXを理解する
- ・ DX推進に向けた社内連携・体制の構築方法を理解する

コースのねらい

生産現場で用いられる各種製造装置や製造工程の監視・制御にICTやIoTなどのデジタル化を組み込むことにより、製品やサービス、ビジネスモデルの改革（DX）を推進して、生産性向上、ビジネス競争力を獲得する方法を理解する。

カリキュラム（例）

	基本項目	主な内容（例）
基本要素	■ 製造業におけるDXの理解	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートファクトリ ・スマートプロダクト ・スマートサービス ・自社現状のDX進捗状況
	■ DX実現事例	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートファクトリ実現事例 ・デジタル技術（ICT、IoT）の製造現場での活用と効果 ・データ収集・連携・活用方法
	■ DX推進の目標設定と解決策	<ul style="list-style-type: none"> ・現状調査と課題の抽出 ・DX適用範囲の決定と目標設定 ・解決策の検討 ・DX化の設計
	■ DX推進の計画と実行	<ul style="list-style-type: none"> ・生産活動の見える化と取得したデータを活用した改善 ・社内部門の連携 ・社外資源の活用と連携 ・人材の育成・確保
	演習（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・自社現状のDX進捗状況の把握 ・自社の具体的な取組領域（対象や目的、効果、扱うデータ、使用するデジタル技術） ・DX化の設計 ・DX推進に必要な課題の整理
応用・実践要素（例）		<ul style="list-style-type: none"> ・スマートプロダクトの実現方法 ・スマートサービスの実現方法

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
(2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推薦対象者

中堅層、管理者層

関連コース

A 生産管理	<ul style="list-style-type: none"> ・生産現場の問題解決 ・生産性向上のための課題とラインバランス
A パックオフィス	<ul style="list-style-type: none"> ・DXの推進 ・DXの導入 ・IT新技術による業務改善 ・データサイエンス入門 ・データ活用で進める業務連携 ・クラウドを活用した情報共有能力の拡充 ・IoT活用によるビジネス展開 ・ITツールを活用した業務改善
B 組織マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・成果を上げる業務改善 ・DX人材育成の進め方

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることができます。なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

原価管理とコストダウン

人材育成上の課題・目標

- ・製造原価を見直してコストダウンしたい
- ・現場改善を行ったが思ったような成果が出ない
- ・現場改善の客観的なデータを把握したい
- ・IE手法による現場改善を行いたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・シミュレーションソフト等により原価シミュレーションする
- ・ロス低減のための改善方法を理解する
- ・見積りコスト算出及びコストダウン実行計画を策定する
- ・IE手法による最適な生産システムを提案する

コースのねらい

低コスト化と生産性向上を目指して、原価管理をコスト（費用削減）と生産性（業務効率向上）の2軸で捉え、企業収益向上のポイントを習得する。

カリキュラム（例）

	基本項目	主な内容（例）
基本要素	■ 原価管理とは	<ul style="list-style-type: none"> ・原価管理の基礎知識 ・原価を構成する要素 ・損益分岐点 ・財務諸表とその読み方
	■ コスト削減	<ul style="list-style-type: none"> ・コスト削減の着眼点 ・コスト削減のための発注改善 ・職場の物理的ムダの改善
	■ IE手法による標準時間設定方法	<ul style="list-style-type: none"> ・IE (Industrial Engineering)とは ・標準時間の設定手法 ・統計的時間資料の考え方 ・余裕率の設定方法
	演習（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフト等による原価シミュレーション ・ロス（不良、労務費）低減のための改善演習 ・見積りコスト算出・購買・今後の改善案及びコストダウン実行計画策定
応用・実践要素（例）		<ul style="list-style-type: none"> ・IE手法による最適な生産システムの設計・改善・構築 ・ICタグやビッグデータの活用による在庫管理の最新動向 ・現場におけるコストダウン活動のポイントと事例紹介

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
(2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推薦対象者

管理者層

関連コース

- A 生産管理
 - ・サービス業におけるIE活用
 - ・購買・仕入れのコスト削減
 - ・POSシステムの活用技術

- A バックオフィス
 - ・企業価値を上げるための財務管理

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることができます。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

在庫管理システムの導入

人材育成上の課題・目標

- ・在庫削減の進め方がわからない
- ・在庫削減や在庫の適正化の方法を知りたい
- ・在庫管理システムを導入したい
- ・在庫管理システムを導入したが思うように運用できていない

課題解決・目標達成を目指して

- ・在庫量・発注量・需要量を算出する
- ・自社在庫の問題点を洗い出す
- ・在庫管理システムの構築例を知る
- ・システム導入による在庫管理の運用事例を知る

コースのねらい

在庫管理システムを活用した在庫削減をめざして、在庫管理業務の意義と役割を理解し、在庫管理制度を正常に機能させるために在庫管理制度を維持する方法や他の管理システムの計画情報との連動について習得する。

カリキュラム（例）

	基本項目	主な内容（例）
基本要素	■ 在庫管理について	<ul style="list-style-type: none"> ・在庫管理の対象と在庫管理業務の機能 ・在庫品の評価方法
	■ 在庫管理システム	<ul style="list-style-type: none"> ・在庫管理システムによる在庫管理概要 ・システムを機能させるための在庫管理制度の維持 ・他の管理システムとの計画情報の連動について
	演習（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を通じた在庫量・発注量・需要量の算出 ・システムの構築から運用までのトラブルシューティング ・自社在庫の問題点の洗い出し/システムの導入検討
応用・実践要素（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・作業効率を考えた在庫の置き方 ・ICタグやビッグデータの活用による在庫管理の最新動向 ・システム導入による在庫管理の実施事例 	

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
(2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推薦対象者

中堅層

関連コース

- A 生産管理
・購買・仕入れのコスト削減
・在庫管理の進め方
- A 流通・物流
・流通システム設計
・物流システム設計

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることができます。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

在庫管理の進め方

人材育成上の課題・目標

- ・在庫削減の進め方がわからない
- ・在庫削減や在庫の適正化の方法を知りたい
- ・在庫管理の適正化を行い在庫精度を向上させたい
- ・過剰在庫や欠品が改善されない

課題解決・目標達成を目指して

- ・在庫量・発注量・需要量を算出する
- ・自社在庫の問題点を洗い出す
- ・在庫精度（在庫削減・適正在庫）の考え方を理解する
- ・発注点管理やABC分析（重点分析）など定量管理手法を習得し改善の仕組みを理解する

コースのねらい

コスト管理及び納期管理の視点による定量管理手法による業務改善目標の作成方法を理解して、コスト削減に必要な知識・技能を習得する。

カリキュラム（例）

	基本項目	主な内容（例）
基本要素	■ 在庫管理の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・在庫管理の対象と在庫管理業務の機能 ・在庫品の評価方法 ・在庫回転率と資金繰りの関係
	■ 在庫の適正化について	<ul style="list-style-type: none"> ・棚卸差異の分析と精度向上 ・発注点・安全在庫の設定、在庫回転率 ・発注リードタイムと在庫回転日数の適正值
	演習（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を通じた在庫量・発注量・需要量の算出 ・棚卸記録と差異分析シミュレーション ・簡易在庫シミュレータ作成
応用・実践要素（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・作業効率を考えた在庫の置き方 ・自職場の在庫課題、改善提案と事例紹介 	

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
(2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推薦対象者

初任層、中堅層

関連コース

- A 生産管理
 • 在庫管理システムの導入
 • 購買・仕入れのコスト削減
 A 流通・物流
 • 流通システム設計
 • 物流システム設計

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることができます。なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

購買・仕入れのコスト削減

人材育成上の課題・目標

- ・コスト構造分析を実施してコスト削減を実行したい
- ・自社のコスト削減活動の現状と課題を知りたい
- ・コストダウン手法を知りたい
- ・コスト削減の余地を定量的に把握して、利益確保のための計画を立てたい

課題解決・目標達成を目指して

- ・課題を通じた見積もりコストの算出方法を理解する
- ・購買業務の問題発見方法を理解する
- ・改善案及びコストダウン実行計画を策定する
- ・現場におけるコストダウン活動のポイントを理解する

コースのねらい

製品の価格と売上に直結する購買・仕入れ業務の重要性とコストの関係を理解し、購買・仕入れ活動におけるコスト削減に必要な知識・技能を習得する。

カリキュラム（例）

	基本項目	主な内容（例）
基本要素	■ 購買・仕入れ業務の理解とコストの関係	<ul style="list-style-type: none"> ・購買・仕入れ業務の理解 ・購買・仕入れ業務の役割と重要性 ・購買・仕入れ業務における経費削減の実現方法
	■ VA（価値分析）活動による経費削減	<ul style="list-style-type: none"> ・品質とコストの関係 ・現行製品の設計と材料の分析 ・仕入先の工夫による原価経費の削減 ・代替案の実行可能性の検討 ・再設計による原価削減
	演習（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を通じた見積もりコストの算出 ・購買・仕入れ業務の問題発見 ・自社における今後の改善案及びコストダウン実行計画の策定
応用・実践要素（例）		<ul style="list-style-type: none"> ・発注先選定の戦略と日常管理 ・クラウドを用いた購買・仕入れ業務改善 ・現場におけるコストダウン活動のポイントと事例紹介

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
(2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推薦対象者

中堅層

関連コース

- A 生産管理
 ・原価管理とコストダウン
 ・在庫管理システムの導入
 ・在庫管理の進め方
 A 流通・物流
 ・流通システム設計
 ・物流システム設計
 A バックオフィス
 ・企業価値を上げるための財務管理

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることができます。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

POSシステムの活用技術

人材育成上の課題・目標

- POSシステム導入のメリット・デメリットを知りたい
- POSシステムを活用して顧客の囲い込みを実現したい
- POSシステムのデータを活用して売上げをあげたい
- POSシステムを効率的に活用したい

課題解決・目標達成を目指して

- POSシステム導入によるハード・ソフト双方のメリットを洗い出す
- 顧客データを活用する
- 外部POS・外部EOSデータを活用する
- クラウド型POSを活用する

コースのねらい

POS (Point of sale) システムのメリットを理解し、販売管理、販売戦略に活用できる知識・技能を習得する。

カリキュラム（例）

	基本項目	主な内容（例）
基本要素	■ POSシステムの概要	<ul style="list-style-type: none"> • 小売業における情報化戦略 • POSシステムの概要
	■ POSシステムの導入事例	<ul style="list-style-type: none"> • POS導入 • POSデータ処理 • POSデータを活用した販売管理
	演習（例）	<ul style="list-style-type: none"> • POSデータ処理演習 • POSシステム導入によるハードメリット、ソフトメリットの洗い出し
応用・実践要素（例）		<ul style="list-style-type: none"> • POSシステム活用の局面（外部POS、外部EOSデータの活用等） • クラウド型POSの活用技術 • 事例紹介（スーパー、VC、チームマーチャンダイジング等）

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
(2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6~30時間の間で設定可能です。

推薦対象者

中堅層

関連コース

A 生産管理
 • 原価管理とコストダウン
 • 在庫管理システムの導入

A 流通・物流
 • 物流のIT化

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることができます。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

品質管理基本

人材育成上の課題・目標

- ・品質データの分析方法及び評価方法を知りたい
- ・品質データの分析結果を活用して現場改善につなげたい
- ・品質管理情報を活用して品質向上につなげたい
- ・QC活動の必要性や背景を全社的に浸透させたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・品質データの分析方法及び評価方法を理解する
- ・図面、資料の管理方法を理解する
- ・品質管理手法の最新動向を知る
- ・QC 7つ道具を用いた自社の問題発見と管理方法を理解する

コースのねらい

品質管理の考え方を理解し、QC 7つ道具を使って課題への対処ができる知識と技能を習得する。

カリキュラム（例）

	基本項目	主な内容（例）
基本要素	■ 品質管理の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・品質管理とは ・検査とは
	■ QC 7つ道具	<ul style="list-style-type: none"> ・QC 7つ道具と使い方 ・QC的問題解決の進め方
応用・実践要素（例）	・表計算によるQC 7つ道具の使い方演習（管理図、バレート図等） ・特性要因図を用いた問題発見演習 ・QC 7つ道具を用いた自職場の問題発見と管理	<ul style="list-style-type: none"> ・新QC 7つ道具の概要 ・ビッグデータを用いた品質管理の最新動向 ・QC 7つ道具を使った品質管理手法の好事例紹介

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
(2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6~30時間の間で設定可能です。

推薦対象者

初任層

関連コース

A 品質保証・管理
・品質管理実践

A バックオフィス
・クラウド活用入門
・クラウドを活用したシステム導入

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることができます。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

品質管理実践

人材育成上の課題・目標

- ・慢性不良をゼロにしたいが上手くいかない
- ・品質データの分析結果を活用して作業を標準化したい
- ・QCサークルなどの小集団を組織したい
- ・IoT、AIなどのITを活用して不良改善したい

課題解決・目標達成を目指して

- ・不良・クレーム発生原因を分析する
- ・品質管理活動の推進方法を理解する
- ・作業標準を作成する
- ・QC的問題解決法を理解する
- ・クラウドを活用し、データを情報共有する

コースのねらい

品質管理の考え方を理解し、不良・クレームゼロを実践するために必要な知識と技能を習得する。

カリキュラム（例）

	基本項目	主な内容（例）
基本要素	■ 品質管理の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・品質管理と不良ゼロ ・品質管理と品質保証
	■ 品質管理活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・品質管理活動の基本 ・作業標準化
	■ 不良・クレームゼロの実践	<ul style="list-style-type: none"> ・QC的問題解決法 ・不良・クレーム発生の原因分析とゼロにする対策 ・再発防止
	演習（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を通じたQC的問題解決演習 ・事例を用いた不良・クレーム発生原因の分析 ・自職場における作業標準書の作成
応用・実践要素（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・新QC 7つ道具 ・クラウドを活用したデータ管理と情報共有 ・QC導入による付加価値（コストダウン等）事例紹介 	

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
(2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6~30時間の間で設定可能です。

推薦対象者

中堅層

関連コース

- A 品質保証・管理
・品質管理基本

A バックオフィス
・クラウド活用入門
・クラウドを活用したシステム導入

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることができます。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

サービスマネジメントによる品質改善と向上

人材育成上の課題・目標

- ・画一的なサービスの提供ができていない
- ・自社サービスの課題を発見したい
- ・サービス品質を改善するサービスマネジメントについて知りたい
- ・価格以外の競争優位性を高めたい
- ・ボトムアップによるサービス品質の改善を図りたい
- ・市場・顧客の拡大から利益の最大化を図りたい



課題解決・目標達成を目指して

- ・サービスの特徴と性質を再確認する
- ・サービスの基本と顧客との関係づくりについて理解する
- ・サービスマネジメント行動を理解する
- ・効果的な品質改善案を検討する
- ・新たなサービスの経営特性を理解する
- ・自社におけるビジネス活動の問題解決方法を理解する

コースのねらい

現場でサービスを提供する個々の従業員が、顧客視点に立つことにより提供しているサービスにおける課題・問題点を発見し、ボトムアップによりサービス品質の改善や向上に向けた具体的な行動に移すための手法を習得する。

カリキュラム（例）

	基本項目	主な内容（例）
基本要素	■ サービスの理解	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスの特徴と誤解 ・サービスの性質（無形性、不均一性、同時性、消滅性） ・サービスの価値とコスト ・現場での問題発見・解決
	■ サービスマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスの品質の再考 ・サービスマネジメントによる品質改善（マーケティング、オペレーション、人的資源管理） ・ボトムアップによる改善プロセス
	演習（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・現場の課題を通じたサービス品質改善演習 ・事例を用いたサービスマネジメントのケーススタディ ・自社事例を使っての品質改善提案演習
応用・実践要素（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスの特性における品質改善 ・ビッグデータを用いたサービス向上の最新動向・事例紹介 ・ものづくり現場での顧客視点での改善事例紹介 	

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
(2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6~30時間の間で設定可能です。

推薦対象者

中堅層

関連コース

- A 流通・物流
・卸売業・サービス業の販売戦略
A 生産管理
・サービス業におけるIE活用
C 営業・販売
・マーケティング志向の営業活動の分析と改善
C 企画・価格
・製品・市場戦略

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることができます。なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

3PLとSCM

人材育成上の課題・目標

- ・物流全体の最適化・効率化を実現したい
- ・物流コストを削減したい
- ・3PLとSCMの最新動向を知りたい
- ・3PL物流のプロデュースについて最新情報を知りたい

課題解決・目標達成を目指して

- ・物流のアウトソーシングを理解する
- ・コンセプト作りからデータ分析、コスト・シミュレーションする
- ・ITを使ったロジスティクスの最新動向を知る
- ・4PL組織が提供するサービス事例を知る

コースのねらい

物流のアウトソーシングの実態を理解し、3PL (third - party logistics) と SCM (Supply Chain Management) との関連についての知識と技能を習得する。

カリキュラム（例）

	基本項目	主な内容（例）
基本要素	■ 物流のアウトソーシング	<ul style="list-style-type: none"> ・物流の内容 ・物流のアウトソーシング
	■ SCM (Supply Chain Management)との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・サプライチェーン・マネジメント ・3PLとSCMとの関連
演習（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・3PL営業に必要なデータ分析手法 ・ケーススタディ（コンセプト作りからデータ分析、コスト・シミュレーション） ・3PL提案書の作成 	
応用・実践要素（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・輸送コスト分析、物流センターの生産性向上 ・ITを使ったロジスティクスの最新動向 ・4PL組織が提供するサービス事例紹介 	

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
- (2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。

※ 6～30時間の間で設定可能です。

推薦対象者

初任層

関連コース

- A 流通・物流
 - ・物流のIT化
 - ・流通システム設計
 - ・物流システム設計
 - ・SCMの現状と将来展望
- B 組織マネジメント
 - ・物流現場のリーダー育成
- C プロモーション
 - ・プロモーションとチャネル戦略

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることができます。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

物流のIT化

人材育成上の課題・目標

- ・物流全体の最適化・効率化を実現したい
- ・物流コストを削減したい
- ・物流システムの最新動向を知りたい
- ・最新IoTを活用した物流のIT化の情報が知りたい

課題解決・目標達成を目指して

- ・流通・物流ネットワークの構築と情報技術を理解する
- ・需要予測及び輸送・配送計画方法を理解する
- ・物流IT導入に伴う問題検証方法を理解する
- ・流通・物流業界におけるIT化事例を知る

コースのねらい

宅配と通販の関係及び物流のIT化の進展、関連する情報技術を知り、流通物流ネットワークの構築について提案することができる知識と技能を習得する。

カリキュラム（例）

	基本項目	主な内容（例）
基本要素	■ 流通・物流ネットワークの構築と情報技術	<ul style="list-style-type: none"> ・流通ネットワーク ・物流ネットワーク
	■ 物流のIT化の進展	<ul style="list-style-type: none"> ・物流のIT化 ・物流革新
演習（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・事例を用いた需要予測及び輸送・配送計画演習 ・物流IT導入に伴う問題検証グループ演習 ・自社におけるデータマイニングによる需要予測及び輸送・配送計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・関連情報技術と科学的管理法 ・流通・物流における情報端末の活用 ・流通・物流業界におけるIT化事例紹介

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
(2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推薦対象者

初任層

関連コース

- A 流通・物流
 ・3PLとSCM
 ・流通システム設計
 ・物流システム設計
 ・SCMの現状と将来展望
 A 生産管理
 ・POSシステムの活用技術
 B 組織マネジメント
 ・物流現場のリーダー育成

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることができます。なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

流通システム設計

人材育成上の課題・目標

- ・自社流通コストの分析結果からコスト削減を図りたい
- ・流通システム導入を考えているがその手順を知りたい
- ・流通システムの最新動向を知りたい
- ・売上最大化戦略を目指したシステム開発の動向が知りたい

課題解決・目標達成を目指して

- ・流通システム分析方法を理解する
- ・システム分析とシステム設計手順を理解する
- ・クラウド環境に対応したSCMソフトウェアを知る
- ・流通システム開発導入事例を知る

コースのねらい

流通システムとその進め方及び新たな流通システムの事例を知り、流通システム設計を進めるための知識と技能を習得する。

カリキュラム（例）

	基本項目	主な内容（例）
基本要素	■ 物流コスト管理と生産性向上	<ul style="list-style-type: none"> ・自社物流コストの算定 ・物流ABC準拠による物流コストの算定
	■ システム分析とシステム設計手順	<ul style="list-style-type: none"> ・システム分析とその進め方 ・システム分析とシステム設計との関係
	■ SCM (Supply Chain Management) のシステム	<ul style="list-style-type: none"> ・SCMシステム概要 ・SCM取組み事例
	演習（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・活動基準原価計算演習 ・流通システム分析グループ演習 ・自社流通システムの分析
応用・実践要素（例）		<ul style="list-style-type: none"> ・TOC (Theory of Constraints) 制約条件の理論 ・クラウド環境に対応したSCMソフトウェアの紹介 ・流通システム開発導入事例紹介

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
(2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推薦対象者

中堅層

関連コース

- | | |
|------------------|---------------|
| A 生産管理 | ・在庫管理システムの導入 |
| ・在庫管理の進め方 | ・購買・仕入れのコスト削減 |
| A 流通・物流 | ・3PLとSCM |
| ・物流システム設計 | ・物流のIT化 |
| A バックオフィス | ・SCMの現状と将来展望 |
| ・企業価値を上げるための財務管理 | |
| C プロモーション | |
| ・プロモーションとチャネル戦略 | |

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることができます。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

物流システム設計

人材育成上の課題・目標

- ・自社物流コストの分析結果からコスト削減を図りたい
- ・物流システム導入を考えているがその手順を知りたい
- ・物流システムの最新動向を知りたい
- ・売上最大化戦略を目指したシステム開発の動向が知りたい

課題解決・目標達成を目指して

- ・物流コスト管理方法を理解する
- ・物流システム設計の手法を理解する
- ・ICタグを活用した物流システムの管理の実際を知る
- ・物流システムを用いた効率的な物流業務（倉庫・在庫管理）を知る

コースのねらい

物流の生産性向上とコスト管理を理解し、物流システムの設計に関する知識・技能を習得する。

カリキュラム（例）

	基本項目	主な内容（例）
基本要素	■ 物流の生産性向上とコスト管理	<ul style="list-style-type: none"> ・物流コストと標準化 ・物流の生産性向上
	■ 物流システム設計	<ul style="list-style-type: none"> ・物流システム設計の概要 ・物流システム設計の手法
演習（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を用いた物流システム設計演習 ・生産性向上に向けた物流の改善グループ演習 ・自社における配送計画の作成 	
応用・実践要素（例）	<ul style="list-style-type: none"> ・物流センターの設備設計 ・ICタグを活用した物流システムの管理の実際 ・物流システムを用いた物流業務の効率化（倉庫管理、在庫管理） 	

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
(2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推薦対象者

中堅層

関連コース

- | | |
|------------------|---------------|
| A 生産管理 | ・在庫管理システムの導入 |
| ・在庫管理の進め方 | ・購買・仕入れのコスト削減 |
| ・購買・仕入れのコスト削減 | A 流通・物流 |
| A 流通・物流 | ・3PLとSCM |
| ・3PLとSCM | ・物流のIT化 |
| ・物流システム設計 | ・SCMの現状と将来展望 |
| A バックオフィス | |
| ・企業価値を上げるために財務管理 | |

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることができます。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

卸売業・サービス業の販売戦略

人材育成上の課題・目標

- 市場・顧客の拡大から売上高と粗利益率の最大化を図りたい
- 新たな流通・商品開発において付加価値の追求に取り組みたい
- 価格以外の競争優位性を高めたい
- コスト削減、仕入れ価格、オペレーションコストの抑制に取り組みたい

課題解決・目標達成を目指して

- 効果的な販売戦略案を作成する
- ニューサービスの経営特性を理解する
- 自社におけるビジネス活動の問題解決方法を理解する
- 販売活動の改善方法を理解する

コースのねらい

サービス業の経営上の特質を知り、卸売業・サービス業の販売戦略を構築できる知識及び技能を習得する。

カリキュラム（例）

基本要素	基本項目	主な内容（例）
	■ 卸売業の活性化と流通機構	<ul style="list-style-type: none"> 経営戦略の転換による活性化 流通機構システムと卸売業 流通機構の近代化への役割分担 充足戦略 販売促進機能
	■ 組織化活動	<ul style="list-style-type: none"> 機能と活動体系 組織化活動と連携意識 V C（ボランタリーチェーン）組織の一般的な機構内容
	■ サービス業の経営上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 一般サービス業のビジネス活動 ニューサービスの経営特性 マーケット開拓のポイント サービス活動の付加価値
	演習（例）	<ul style="list-style-type: none"> 販売戦略案の作成 販売活動改善グループ演習 自社におけるビジネス活動の問題解決
応用・実践要素（例）		<ul style="list-style-type: none"> 取引先支援活動（ディーラーヘルプス等） I Tネットワークを使った情報化対応事例 ニューサービス業成功事例

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
(2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推薦対象者

中堅層

関連コース

- A 生産管理
 - サービス業におけるI E活用
 - 原価管理とコストダウン
 - 購買・仕入れのコスト削減
- C 営業・販売
 - マーケティング志向の営業活動の分析と改善
- C マーケティング
 - 実務に基づくマーケティング入門
- C 企画・価格
 - 製品・市場戦略

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることができます。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。

SCMの現状と将来展望

人材育成上の課題・目標

- 販売、受注実績データから、発注、生産、販売までの最適化を図りたい
- 在庫の削減などによるコスト削減、経営の効率化を目指したい
- コスト削減、仕入れ価格、オペレーションコストの抑制に取り組みたい
- 自社商品のグローバル化を図りたい

課題解決・目標達成を目指して

- SCMの仕組みを理解する
- SCM構築に当たっての問題検証をする
- 自社の将来を見据えたSCM構築案を作成する
- グローバルサプライマネジメントへの転換を検討する

コースのねらい

サプライチェーン・マネジメントの概要及び現状と将来展望を知り、サプライチェーン・マネジメント経営手法についての知識と技能を習得する。

カリキュラム（例）

	基本項目	主な内容（例）
基本要素	■ SCM (Supply Chain Management)	<ul style="list-style-type: none"> サプライチェーン・マネジメントの概要 基本コンセプト 経営環境の変化とSCM
	■ 現状と将来展望	<ul style="list-style-type: none"> メーカーにおける現状と将来展望 小売業における現状と将来展望
演習（例）		<ul style="list-style-type: none"> 事例や課題を通じたSCM業務連鎖シミュレーション演習 SCM構築に当たっての問題検証 自社の将来を見据えたSCM構築案の作成
応用・実践要素（例）		<ul style="list-style-type: none"> グローバルサプライマネジメント ITとサプライチェーン・マネジメント SCM構築事例

日程設定と受講料（例）

- (1) 1日（6時間）コース
3,300円（税込）
(2) 2日間（12時間）コース
5,500円（税込）

※ 金額は、1名あたりの受講料です。
※ 6～30時間の間で設定可能です。

推薦対象者

管理者層

関連コース

- | | | |
|------------|-----------------|-----------|
| A 生産管理 | ・購買・仕入れのコスト削減 | |
| A 流通・物流 | ・3PLとSCM | ・物流のIT化 |
| | ・流通システム設計 | ・物流システム設計 |
| B 組織マネジメント | | |
| | ・物流現場のリーダー育成 | |
| C プロモーション | | |
| | ・プロモーションとチャネル戦略 | |

※ 基本項目は必須としますが、主な内容や演習、応用・実践要素は、ご要望に応じてカスタマイズすることができます。
なお、訓練時間によっては、上記の全ての内容を実施できるものではありません。